三重県

尾鷲農林水産事務所　森林・林業室　林業振興課　主査
伊　藤　　克　之

尾鷲林政推進協議会への支援について

1　テーマの趣旨・目的

尾鷲ヒノキの産地として知られる三重県尾鷲地域は三重県の南部に位置し、紀北町と尾鷲市からなっている。当地域では、昭和43年に、市町・森林組合・県・その他林業関係各団体で構成する尾鷲林政推進協議会が発足し、地域林業、木材産業の振興と技術の向上を目的とした活動を行ってきた。現在、この尾鷲林政推進協議会が中心となって、FSC グループ認証の取得や日本農業遺産保全計画の実行等、尾鷲ヒノキという地域の資源を生かした林業の活性化に取り組んでおり、林業普及指導員がその活動支援を行っているため、その成果等について報告する。

2　現状及びこれまでの取組の成果・課題

（1）現状

当地域は、地形が急峻で多雨であるため、やせ地が多く、樹木の生長が遅いという不利な条件を抱えている。こうした中、密植と丁寧な枝打ち・間伐を繰り返し、年輪が緻密で耐久性に優れ、赤味が多く、美しい光沢を有する尾鷲ヒノキを生産してきた。この「急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業」は、平成28年に尾鷲林政推進協議会の申請により、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などを一体的に評価し、特に重要性を有するものを農林水産大臣が認定する「日本農業遺産」に認定されている。

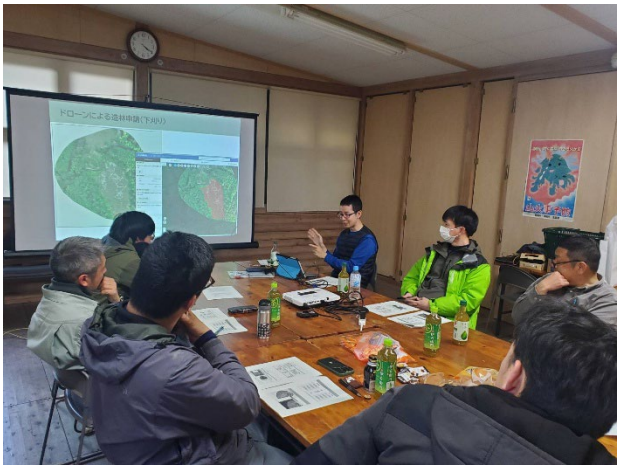
（2）取組内容

日本農業遺産の認定地域では、５年間の保全計画を策定し、当該地域の農林水産業システムの維持・保全等に係る活動を行うこととされており、当地域でも尾鷲ヒノキ林業の維持・保全に向けて 37 項目の取組を計画に盛り込んでいる。具体的には、

・密植施業地の確保
・苗木の生産本数
・スマート林業の推進（GNSS 測量、ドローンの活用等）
・小中学生への体験学習の実施
・熊野古道沿線モニタリング
・シンポジウムの開催

等を計画に盛り込んでおり、林業普及指導員は、これらの取組の進捗状況を把握しながら、それぞれの活動に対する支援を行っている。

支援内容の詳細について、“スマート林業の推進“の項目では、造林補助申請時にドローンを活用することで、一部申請書類や現地検査を省略し、事務的な労力の軽減を図ることができるよう、林業事業体や市町に対する指導を行った。また、間伐の実施前後をドローンで把握できないかとの相談が事業体からあったことから、リモートセンシングに関する勉強会にも取り組んだ。間伐実施林分において、地上からのプロット調査とドローンによる調査を実施し、その精度等に関する情報を勉強会で共有し、今後のリモートセンシングの活用方法について関係者と議論を行った。



（写真１：リモートセンシング勉強会の実施状況）

“密植施業地の確保”や“苗木の生産”の項目では、当地域において再造林未済地が増加している状況を受け、再造林率の高い九州地方を、地域の若手林業従事者と共に視察し、その取組内容を地域関係者に報告した。視察を通じて得た知見を基に、今後の地域における再造林の在り方について議論を行い、

①再造林ネットワークの構築により、伐採業者、造林業者、市町、県が協力し、情報を共有することで再造林を進めること

②苗木生産における福祉関係者との連携拡大により、苗木生産量を増加させること

③造林作業班の年間スケジュールを作成、また同一林分の植林から下刈りまでを同一班で行うことで、効率的に再造林を進めること

④需要のある足場丸太に特化した施業を行い、尾鷲ヒノキの新しいブランディングを図り付加価値を高めること

等が新たな取組方針として提案された。

（写真２：再造林にかかる勉強会）

（３）成果

日本農業遺産保全計画では、5 年ごとに自己評価を行うこととされており、令和 6 年度末（2 期目：R4.4～R9.3 のうち 3 年目）時点では、37 項目のうち 31 項目は“達成“もしくは”概ね達成“できる見込みである。また、保全計画を策定・実行することで、市町や森林組合の目的意識が明確になり、地域全体に一体感が生まれている。

（４）課題

37 項目のうち、6 項目は達成が困難であり、特に“密植施業地の確保”をどう進めていくかが大きな課題となっている。低密度植栽等による再造林コストの低減が求められる中、当地域においても密植を行わない植栽地が増えている。一方で林業事業体や森林所有者等からは、植栽本数を減じた場合の材質等について不安の声も寄せられているところであり、密植・多間伐という施業方法によって尾鷲ヒノキのブランド材を生産してきた当地域において、今後どういった施業を行っていくか、丁寧に議論していく必要があると考えている。

3　今後取組むべき内容

将来にわたって多様な材を供給するためには、従来の尾鷲ヒノキ林業と低コスト造林との両立を図るためのゾーニングをすることが求められる。林業普及指導員としては、山林所有者に対して、両方のメリット・デメリットを伝える必要がある。加えて、尾鷲ヒノキの認知度を向上させるための新たなキャンペーンや地域イベントを計画することも重要である。こうした中、令和 7 年 10 月から、尾鷲ヒノキ林業を次世代に伝えていくことを目的としてクラウドファンディングに取り組んでおり、この取組を通じて、密植に必要な費用を捻出するのはもちろんのこと、尾鷲ヒノキ林業の認知度向上や地域住民の参画を図り、地域林業を活性化させていきたい。

（図１：クラウドファンディングチラシ）